

川を併せて犀川の本流となる。上記の二又川を一旦西谷川、倉谷川を一旦東谷川といふこともある。二又から七軒を下つて左岸から金谷の水を容れ、又一二軒にして末に至り、三輪山から發する内川を合はせ、金澤を貫き、石川郡古保に於いて伏見川を併せ、神合で安原川を受け、更に西北流して金石港で海に朝する。流程四七軒。この犀川は三宮古記に佐井河と記される。下流に式内佐奇神社があるから、社號と河名と相交渉するものがあるやうである。金城三河考に、犀川の古名を中村河といふと記したのは、殘簡風土記が偽書なるを知らずして引用した誤謬である。又同書に、瑞龍公(前田利長)の手書に西川に作つたものがあるといふのは、文祿三年九月七日前田利家が尾山町年寄中に對して、『西川・淺野川橋手傳之事、能州へも又加州山おくへ越候て、材木を出候事はゆるし候。』というた書面をさすものなるべく、この西川は正しく犀川に相違ないが、同書に白山宮莊嚴講中記録延應元年の條を引いて、これにも亦犀川を西川と記してゐるといふは誤で、それは手取川の白山本宮西方を流れる部分を指してニシ川といふたのである。犀川を西川に作るものは、前記の外、本願寺宣如の年不詳七月五日附文書に、加州石河郡西川谷之内タツミ村・平清水村(平澤賦)・水淵村講衆中とし、常如の九月十四日附文書に、加州石川郡西川谷三村二十五日講中とするものなどがあつて、當時通用したのであらう。藩治時代の雜書・俗文に於いては、専ら才川の字が用ひられてゐる。犀川の洪水に就いては、寛永八年六月新堅町上より流れ込み、堅町・河原町に浸水し、犀

川除邊百餘戸流失、溺死八十餘人に及び、川除裁許時目忠兵衛も之に死んだことがある。蓋し文献に見える犀川の洪水中最大の害を興へたものであらう。

サイガハ 西川 ↓サイガハ 犀川。

サイガハアラマチ 犀川荒町 金澤の舊町名。荒町といふものは木ノ新保にもあるから、それと區別して犀川荒町と呼び、或は堅町荒町ともいふた。昔は此の地倉月用水の河岸なる空地であつたのを、後新たに町地としたから、新町の意で名付けたのである。明治四年四月戸籍編成の時、荒町の名を廢し、町續なる鱗町へ合併した。

サイガハイチノハシ 犀川一ノ橋 ↓サイガハオホハシ 犀川大橋。

サイガハオホハシ 犀川大橋 金澤を通ずる北陸道の橋であるから、俗に大橋と呼び、昔は一橋とも稱した。一橋とは城下第一の橋の義であらう。或はいさごの橋とも稱したといふが、それは文献に徵證がない。犀川にはこの外に橋梁を設けてなかつた。

サイガハカケツクリマチ 犀川掛作町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、百姓町の次に犀川懸作町があるが、今は絶えて無い。此の町は、日向町と稱した地の玄蕃川の川縁で、そこに掛作りした家のあつた爲の遺名であらう。明治四年四月戸籍編成の時百姓町に合併した。

サイガハカヨケマチ 犀川川除町 金澤の舊町名。改作所舊記に載せた寛文十年九月里子請人證文の奥書に、『傳馬町後川除之上太郎右衛門云々』とあるから、その頃は未だ町名がなかつたと見えるが、元祿九年地子町肝

煎裁許附には犀川川除町の名が見えてゐる。川除堤防の上に家屋を建築したからの名稱で、初めは上流から下流まで凡べて川除町と唱へたが、寛政七年二月大橋から寶久寺邊までを犀川下川除町と唱へることになつた。この頃から犀川上川除町・犀川中川除町と唱へ分けられたと見える。明治以後犀川の文字を冠せずして上川除町・中川除町・下川除町・新川除町の四町とした。

サイガハカハラ 犀川河原 金澤犀川馬場の尻地で、河岸の通りを惣名して河原と呼んだ。金澤俳優傳記に、『賣婦といふは、犀川筋河原といふ所、又さゝか町云々』とあり、唱歌にも、『ばん場通れば二階からまねく』といはれたのはこゝで、調馬場の土居の傍なる小家屋に賣笑婦がゐたのである。

サイガハキマチ 犀川木町 金澤の舊町名。今の木倉町である。此の外金澤で木町と稱したものに卯辰四丁木町・安江木町があつたが、皆材木問屋のあつた所であらう。

サイガハコトリヤマチ 犀川小鳥屋町 金澤の舊町名。元祿三年火災記に、牛右衛門橋町・鱗町・水淵町・小鳥屋町といひ、同九年の地子町肝煎裁許附には犀川小鳥屋町とある。淺野川にも小鳥屋町があるから、それと區別したのである。油車から新堅町に出る間で、後には小鳥屋小路といふたが、明治四年四月油車の一部とした。

サイガハコバシ 犀川小橋 犀川は初め二瀬に分かれて金澤の城下を貫流してゐたが、その一は今の香林坊橋の所を流れ、そこに架けられた橋を犀川小橋といふた。元和九年前田利光(利常)の印書に、今の木倉町を才川小

橋々下木町と記した如きは是である。

サイガハコバシ 犀川小橋 寛文八年前田綱紀は金澤を貫流する犀川に、櫻畑の所へ越す橋梁を架けようとしたが、六月十二日洪水の爲橋脚を押流されたによつて工事を止めた。後こゝに渡船があつて往來に便じたのを、廢藩の後更に一文橋を架し、明治廿三年初めて新橋梁を設け、之を犀川小橋と稱した。今の櫻畑である。

サイガハコバシテンジン 犀川小橋天神 ↓コバシテンジン 小橋天神。

サイガハシヨウ 犀川庄 石川郡に屬する。藩政時代では、上辰巳・下辰巳・水淵・相合谷・鷲ヶ原・下鷲ヶ原・城力・熊走・寺津・甥杉・駒歸・瀬領・音池・末・見定・日尾・二俣・倉谷の十八ヶ村を含んでゐた。

サイガハジンジャ 犀川神社 金澤新川除町に鎮座する。昔は俗に寶久寺の春日と呼び、石川郡中村の春日社の別社で、本山派の山伏寶久寺が之に奉仕してゐた。普請會所舊記に、中村はもと大村で、今の法船寺町・傳馬町から爾田町・物吉町中央までその區域の爲左岸に移し、春日社も之と共に轉じた。因つて右岸の産子等、元車町にその別社を設けたが、明和五年五月二十九日の洪水に社地流失したから、假にその遺址に草社を建て、後今の地に移した。明治元年神佛混淆禁止の後、寶久寺空位復飾して神職となり、社號を犀川春日社と稱し、七年六月更に犀川神社と改めた。

サイガハダニ 犀川谷 石川郡犀川の金澤よりも上流沿岸をいふ。年不詳八月二十日附、